



5月 ほけんだより

平成26年 第162号



子育て施設課

0823-25-3144

虫さされについて

春から夏へとだんだん気温が高くなると虫たちも元気になってきます。外で遊ぶ機会も増えてくることから虫さされによる症状が多く見られるようになります。今回は虫さされについて説明します。

蚊



一番に多いのは蚊に刺されることでしょう。蚊に刺されるとまず刺されたところが赤く腫れてきます。この腫れが一旦おさまればしばらくしてからもう一度かたく腫れてきます。

子どもの場合は1～2日たってから強く腫れてくることが多く、強く症状がでてから薬をぬってもあまり効果がありません。刺されてから30分以内に炎症をとる薬をぬると症状が軽くてすみます。市販の虫さされの薬でもある程度の効果が期待できますが、反応の強い場合、強めのステロイドの塗り薬を使うほうがよいでしょう。



シーズンのはじめに虫に刺されたとき早めに病院にかかり、薬を処方してもらい、刺されたらすぐにぬれるように外出するときに持ち歩くことがおすすめです。

毛虫



ツバキやさざんかななどの葉の裏に2～3cmの小さな毛虫がたくさんいることがあります。チャドクガといい、毛虫に直接接触らなくても、毛が皮膚にくっつくだけで強い皮膚炎をおこします。

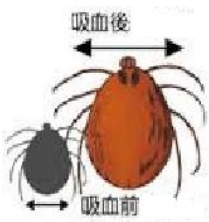
米粒の半分くらいのあかいぶつぶつがたくさんでき、つよいかゆみがあります。こちらでも早い時期にステロイドをぬると効果があります。

また、毛虫の毛が皮膚に刺さって皮膚炎を起こしますので症状のあるところにセロファンテープなどを貼り付け、そのあとはがすと毛がとれるため症状がかるくてすむことがあります。



マダニ

マダニは近くの山、畑などに普通に住んでいます。動物が通りかかると飛びついて食いつきます。大きさは数mmであり、痛くもかゆくもありませんのでほとんど気付きません。



1週間くらいは皮膚にかみついて血を吸い続けます。徐々に大きくなり、「すいかの種」くらいの大きさとなって気付かれることがほとんどです。マダニはいったん食いつくとセメントのような物質を出して皮膚から簡単には離れないようにしますので、無理に引っ張ると、口が皮膚に残り細菌感染やアレルギーを起こすことがあります。

マダニを見つけた場合には自分で取ろうとはせずに、近くの皮膚科を受診しましょう。
緊急性はありませんので普通の診療時間に受診してください。

《 重症熱性血小板減少症後群 (SFTS) について 》

昨年話題となりましたが、重症熱性血小板減少症後群 (SFTS) という病気がマダニにかまれることによって起こることがわかりました。呉市でも2名の患者さんがありました。今までは中年以降の高齢者のみにみられ、子どもでこの病気にかかったという報告はなく、極端に神経質になる必要はありません。一般的にSFTSはマダニにかまれてから2週間くらいの間に症状が出てきますので、その間に熱が出てきたような場合には早めに総合病院を受診してください。SFTSには有効な治療法が無く、対症療法しかありません。一番大切なことはマダニにかまれないようにすることです。

※広島県のホームページでは野外で活動する際には以下のような対処をすすめています。

- ①長袖，長ズボンなどを着用して皮膚の露出を避け，ズボンやシャツの裾などを入れ込んでマダニの入り込みを防ぐ。
- ②屋外活動後は，体や服を叩き，マダニに刺されていないか確認する。
- ③帰宅後は，すぐに入浴して身体をよく洗い付着したダニを落とし，衣服は洗濯する。

実際にマダニを見たことが無いと確認のしようがないと思います。野外活動をした後に小さな黒っぽいできものができたり，そのまわりが赤くなっているようならばマダニにかまれている可能性がありますので皮膚科を受診してみてください。

その他の虫



ハチやムカデにさされたときにはさされてすぐに強い痛みがでてきます。痛いだけであればあわてることはありません。腫れが強いようであれば病院に行きましょう。

ただし、以前にもおなじ虫にさされたことがあり，さされてすぐに気分が悪くなったり，息が苦しくなるような場合にはアナフィラキシーショックの可能性があるのでできるだけ早く救急外来を受診しましょう。症状が強いときには救急車を呼ぶことも必要です。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>